

JP1が支援する 「さまざまなデータの効率的な保護と授受」 「現場機器の監視の仕組みと連動したより確実な通報」

製造現場では製造ログや作業報告書など、膨大なデータが日々生成・蓄積されています。これらを確実に保護し、将来的なデータ活用につなげることは事業継続性の確保につながる重要な課題です。また、大容量ビジネスデータの遠隔地との効率的なやりとり、障害発生時の確実な通報なども、現場で強く求められている要件の一つです。こうしたシーンでもJP1のソリューションがお客様のビジネスを力強くサポートしています。

現場で生まれるデータを効率的に保護したい

製造現場では日々膨大なデータが生成されています。特に近年は製造物責任に対応するため、生産工程ごとに個々の装置の評価データや画像を保管したり、出荷された装置が寿命を迎えるまで製造ログを保存したりといった、トレーサビリティデータの効率的な長期保護が重要な課題となっています。企業にとって、さまざまな現場データは将来的なデータ活用（ビッグデータ分析など）により、歩留まりの改善や故障予知検知、稼働率の向上などに役立つ可能性が高いため、増え続けるデータを確実に保護していくことはデジタルトランスフォーメーションに向けた共通の課題といえます。

そこで日立は、製造現場に存在するさまざまなデータの利活用に向けて、IT運用自動化製品「JP1/Automatic Operation」（以下、JP1/AO）と、バックアップ管理製品「JP1/VERITAS NetBackup」を組み合わせたソリューションを提供しています。

導入事例

自動車部品メーカーの製造ログ・アーカイブシステムにJP1を活用！

ある自動車部品メーカーは、製造物責任法への対応のため、製造ログを

ファイルサーバに日々手作業でバックアップするシステムを運用していました。しかし、保管コストと運用負荷が増大したため、JP1を適用した新たなアーカイブシステムを構築したのです。アーカイブシステムはラインの各工程に接続されたログ収集/バックアップサーバに、低コストで長期保管が可能なLTO^{※1}テープライブラリ装置を接続し、日々の更新データを内蔵HDD経由でLTOテープに上書き・保管するまでの流れをJP1/AOとJP1/VERITAS NetBackupでトータルに自動化したものです。アクセス頻度の高いデータはオンラインのHDD、アーカイブ用のデータはLTOで遠隔保管することで保管コストを最適化。さらに作業者の負担を軽減する運用の自動化で、

データをミスなく効率的に長期保管することに成功しました。

※1 Linear Tape-Open

大容量のビジネスデータを効率的に受け渡し

現場で生成された大容量のデータはメールの添付ファイルとして送ることが難しいため、CDやDVDなどの可搬メディアに保存して受け渡しするケースが少なくありません。しかしデータコピーや搬送に手間とコストがかかるほか、搬送中の盗難・紛失などセキュリティ面にも課題があります。こうした課題に対応するため、日立は高速大容量ファイル転送「JP1/Data Highway」（以下、JP1/DH）を提供しています。

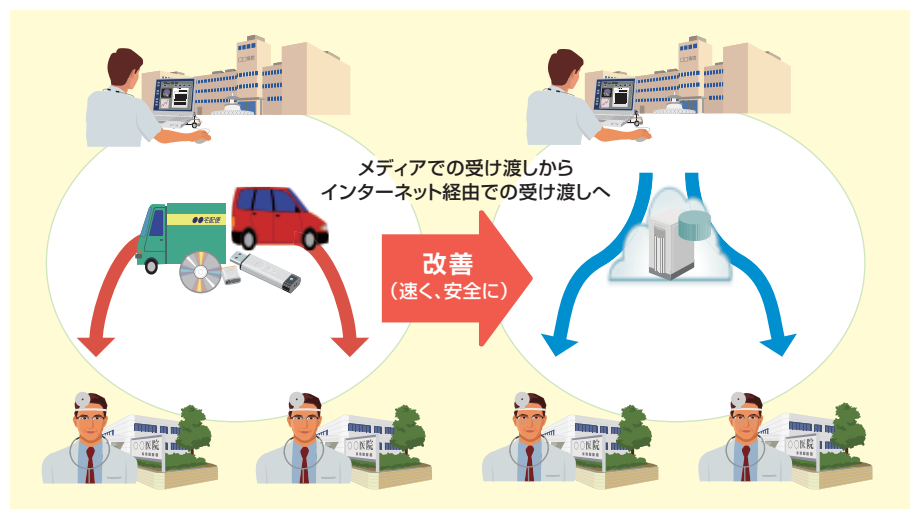


図1 ヘルスケア分野での高速大容量ファイル転送

JP1/DHは、CAD^{*2}や映像などメールに直接添付できない1TBまでの大容量データを、国内外を問わず高速・安全に送受信できる製品です。インターネット回線とWebブラウザを利用するため、短時間・低コストで導入が可能。専用線や特殊なハードウェアは必要ありません。通信経路の暗号化(HTTPS通信)で高いセキュリティを確保しており、お客さまの業務効率とビジネススピードの向上、コスト削減などが図れ、製造業、出版業、小売業、金融業、放送業、公共・研究機関など、さまざまな業種・業務への適用が可能です。

*2 Computer-Aided Design

導入事例

ヘルスケア分野で 医療データの共有にJP1を活用!

ヘルスケア分野では、地域基幹病院とクリニックとの間でX線写真やCTスキャン画像、診断結果などの医療データを迅速・確実にやりとりすることが必要です。従来はこれらのデータをDVDに保存して配送していましたが、手間やコストに加え、配送過程での機密情報の紛失リスクが大きな課題となっていました。しかしJP1/DHの適用後は、拠点間の距離や時間に関係なく大容量データを高速・安全に送信することが可能となり、医療業務の品質向上と

個人情報の保護においても大きな効果を発揮しています(図1)。

現場機器の監視の仕組みと 連動しより確実に通報

現場機器に監視システムを導入しているにもかかわらず、異常があった際に担当者宛てに届くメールを見落としてしまい、対応が遅れてしまうことも起こりえます。日立は、障害や問題の発生をより確実に通報する「JP1/TELstaff」を活用し、迅速な初動対応を実現するソリューションを提供しています。JP1/TELstaffは、さまざまな既存システムにアドオンでき、担当者が不在の場合でもメールや電話など複数の手段で自動的に別の担当者へ連絡する仕組みがあるため、適正な人員配置と運用コストの低減が図れます。

導入事例

現場監視の通報強化にJP1を活用!

製造業のB社では、重要な生産ラインやサーバルーム、研究棟への入退室を監視するため、監視カメラやドアセンサーを設置していました。しかし、監視要員がカメラ映像を長時間確認し続けるのは負担が大きく、離席時にも異常通知を受け取れるシステムを必要としていました。そこで日立は既存の監視システムにJP1/TELstaffをアドオン。パトランプでの通報やメール通知に加え、入退室者に警告音を発したり、自動音声で担当者に電話をかけたりする仕組みを構築。さまざまな局面で迅速な初動対応が行える環境を実現しました(図2)。

このほかにも、漏水や電流値の異常時などの通報や、緊急時の館内放送などにも適用されています。

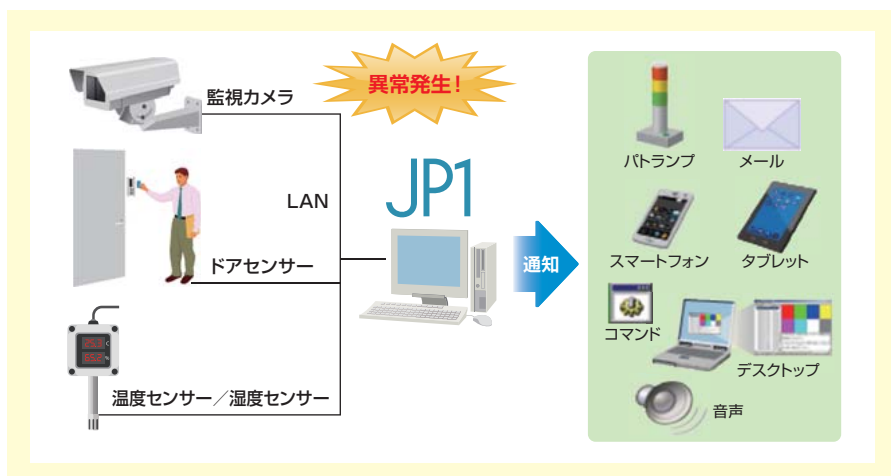


図2 現場機器の監視の仕組みと連動したより確実な通報

お問い合わせ先

HCAセンター(Hitachi カスタマ・アンサ・センター)

☎ 0120-55-0504

受付時間:9:00~12:00、13:00~17:00(土・日・祝日・弊社休日を除く)

携帯電話、PHS、一部のIP電話などフリーダイヤルがご利用いただけない場合は、
ダイヤルイン:045-762-3059(通話料金はお客さまのご負担となります)

■ 情報提供サイト

<http://www.hitachi.co.jp/jp1/>